

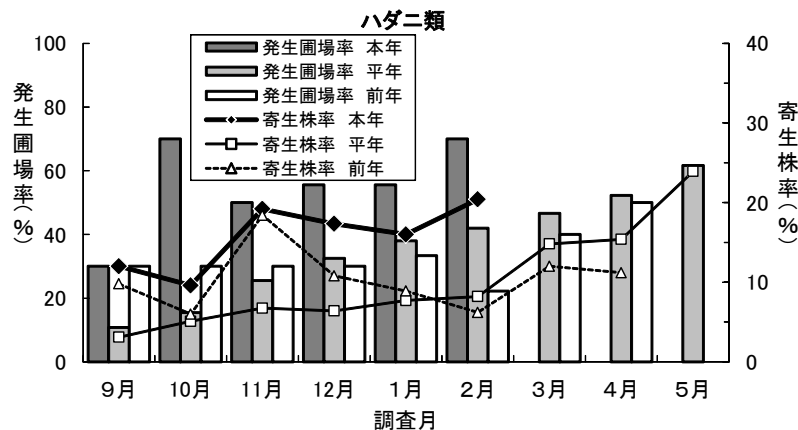
平成27年度 病害虫防除技術情報 第8号

平成28年3月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

イチゴハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）の防除徹底について

本年度は暖冬傾向でハダニ類の発生に適した気候であり、病害虫チームで行った巡回調査での本虫の発生は、発生圃場率、寄生株率ともに平年に比べ高く推移しています。また、2月中下旬に行った巡回調査では発生圃場率70.0%（平年42.0%、前年：22.2%）、寄生株率20.4%（平年：8.2%、前年：6.2%）と平年に比べ高い状況でした。

向こう1ヶ月の気象予報によれば、本虫の発生に好適な高温条件が続くと予想され、さらに発生が増加すると予想されます。発生が見られた圃場では、速やかに防除を実施して下さい。



1. 防除対策

- (1) 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難となるため、ルーペ等を用いてよく観察し、早期発見に努め速やかに防除を実施する。
- (2) 本虫は、下葉の裏に多く生息するので、なるべく摘葉作業後に薬剤散布を行い、薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。
- (3) カブリダニ製剤等の天敵資材を導入する圃場では、薬剤によっては長期間天敵資材に悪影響を及ぼすものがあるため、薬剤の選定にあたっては十分に注意をする。天敵放飼前に、薬剤散布を行い本虫の発生密度を低くする。また、本虫が増えすぎて天敵で抑えきれない場合は、薬剤防除に切り替える。
- (4) 気門封鎖剤は薬剤散布液が直接本虫にかからないと効果がないため、十分に薬液がかかるように丁寧に散布する。また、本剤は卵に活性がないため使用する際は複数回散布を行うか、卵に活性がある剤との体系防除を行う。薬害を生じる場合があるためラベル等をよく確認し使用する。また、天敵資材に影響があるので、天敵資材を導入している圃場では、使用を控える。
- (5) 抵抗性個体群の出現を回避するために、薬剤はローテーション（輪番）使用する。使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

（ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>）